

TEC業務情報

JR東労働組合（ひがし労）
新幹線地方本部業務部情報
発行責任者：小屋 直幸
発行日：2022年9月3日 No.10

申2号 新幹線運転士の養成に関する申し入れ 団体交渉報告 ①

新幹線地本は、8月31日に標題についての団体交渉を行いました。主な議論は以下の通りです。詳細は地本業務部までお問い合わせください。

第1項 新幹線運転士の養成において、駅から運輸部門を経験せず運転士養成をしている見習い操縦者に事象が多発していることから、その要因と対策を明らかにすること。

回答：引き続き必要な教育は行っていく考えである。

組合	会社
・対象者の見習い養成期間中にどのような事象が発生しているのか。	・事象とまではいかないものの、停止位置の修正のような軽微なものは発生している。
・事象の発生件数はその傾向は。件数を踏まえて多い少ないの受け止めは。	・今回の見習い者に限った集計をしているわけではない。 ・停止位置の修正に関しては発生件数が多いが、全体的に見て目立って起きているとは捉えていない。 ・それ以外の部分では大きな事象というのは発生していない。
・事象の対策は。	・要因としてブレーキの取り扱いに関するものだが、ヒューマンエラー的要素ではなく、取り扱いの慣れの問題ともいえる。 ・対策として、ブレーキ取り扱いの感覚を掴んでもらう。停止ブレーキの感覚を養う等のカリキュラムを行ってきている。機会が足りないとすれば、今後検討していかなくてはならない。
・現行のカリキュラムに要因はあるか。	・車両に触る機会を増やすなど、事前に想定した課題点を網羅できるようなカリキュラムを作成している。今回初めての養成となるので、全体的な振り返りは養成終了後に行っていく。
・要因は人的なものか。制度的なものか。	・発生した事象で状況は違う。概況報告等を基に原因を分析したうえで、現場とのコミュニケーションをはかりながら対応している。
・軽微な…とはいっても、お客さまにご迷惑をおかけしている。そのあたりの認識は。	・列車が遅れるという点では、お客さまにご迷惑をおかけしているのは確か。 ・「お客さまの声」としてクレームがあがってはいないが、他列車の乗務員が間接的にクレームを受けていることは承知した。
・現場指導者からの意見等はどのようなものが出ているか。	・統括本部としても都度、現場担当者とのコミュニケーションはとっている。指導担当者や教導担当者には苦勞をかけているのは承知している。
・養成者側からの意見はどのようなものが出ているのか。	・養成対象者にもコミュニケーションはとっている。教導担当者との関係性を含め、気をかけて対応しているところである。
・現場及び養成者に負担がかかっているのではないか。	・養成について、現場任せにしているわけではなく、指導担当者、教導担当者、見習い者のそれぞれが、本音で話ができるような環境を意識していなければならないと考えている。 ・新たに教導担当者になるにあたり、不安を抱えていないかどうか、対象者とのコミュニケーションを踏まえて内容を把握し対応していく。
・今後の指導面で変更するところはあるか。	・現行の内容を大きく変えることはないが、今回の養成を振り返ったうえで、具体的な内容については検討していくことになる。

その②へ続く

申2号 新幹線運転士の養成に関する申し入れ 団体交渉報告 ②

新幹線地本は、8月31日に標題についての団体交渉を行いました。主な議論は以下の通りです。詳細は地本業務部までお問い合わせください。

第2項 安全上の観点から、駅から運輸部門を経験せず運転士養成とする取り組みをやめること。

回答：新幹線運転士の養成に必要な教育は実施しているところである。なお、社員の運用については任用の基準に則り取り扱うこととなる。

組合	会社
・ 現行制度を継続するのか。	・ 取りやめる考えはない。
・ 従来制度から現行のやり方とした理由を改めて伺いたい。	・ 当社の取り巻く環境を踏まえるとともに、今後の社員の成長や意欲に、より応えられるように行っている。
・ 現行の養成のやり方では事象や事故を誘発することにはならないか。	・ 何をもって誘発となるのか、安全を損ねるかはわからないが、必要な教育は実施している。
・ 新幹線を含めて、鉄道はシステムで動いている。新幹線の運行システムを理解するために、運転士以前に車掌業務を学んできたことと捉えているが。	・ その部分を軽視しているわけではない。車掌を経験していなくても捉えることができるように必要な教育は行っている。
・ 今回は初めてということで、養成手法が確立されていない現状というのは不安安全なのではないのか。	・ 今までにない新たな取り組みなので、我々も現場も含め試行錯誤して進めているのが現状だ。
・ ジョブローテーションの考え方により、その道のベテランと言われる方々が次々となくなっている。養成することは大切だが、異動の不安を抱えながら仕事することに現場からは否定的な意見も多い。	・ 車掌や運転士の仕事をずっと続ける、今の仕事を極めるということ否定しているわけではないが、全員がそうなってしまうと組織としては硬直化してしまう。会社としても様々な経験をすることで視野を広げてほしいという想いもある。
・ 施策全体に言えることだが、会社の言う丁寧なコミュニケーションとはかけ離れた実態が現場では散見されている。制度の主旨について現場でも十分なコミュニケーションができるようにすべきではないか。	・ 丁寧なコミュニケーションをしていくというのは今後も変わりはない。 ・ 現場実態が違うというご指摘は承った。

今回の会社回答を基に、職場から検証運動を展開し、より安全な乗務員養成が確立できるよう取り組みを進めていきます。

職場内で「丁寧なコミュニケーション」が確実に実施されているかについても検証していきます。

職場でお困りのことがあれば、お近くの「ひがし労」組合員へ！！